



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY



京都大学人と社会の未来研究院・社会的共通資本と未来寄附研究部門

アカデミアシリーズ

# 未来社会のデザインと 社会的共通資本 第12回

問われる都市の社会的共通資本 — 都市のゴミ問題と  
農村における食料生産の問題

ハイブリッド開催

2025年2月13日木曜日 16時～18時

会場：京都大学 稲盛財団記念館 3階中会議室 京都市左京区吉田下阿達町 46



参加費  
無料

参加申し込み方法

以下のURL (Peatix)にてお申し込みをお願いします。  
<https://scc20250213.peatix.com/view>



アーカイブ  
配信  
あり

都市には食料やエネルギーが集まり、住民はそれを利用し、経済活動を進めています。一方、農村では食料や薪などが都市にむかって運搬されることで、土地から栄養分が取奪され、土地荒廃が進んでいます。西アフリカのニジェールでは、都市のゴミを使って緑化を進め、貧しい地域の人々に食料や収入をもたらすだけでなく、農耕民と牧畜民の対立を火種とする地域紛争の解決への道筋として期待されています。また、この都市と農村の有機物の循環は京都でも試行され、循環型社会の実証実験としても注目されています。ごみを堆肥にして、食料を生産する。そこに潜む課題と障壁はなになのか。その課題から、問われる都市の社会的共通資本のあり方を論じます。

## 大山修一(おおやましゅういち)



京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授

京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。1993年から南部アフリカのザンビア、2000年から西アフリカのサヘル地域において現地調査を継続している。都市の有機性ごみを使って荒廃地の緑化、環境修復をつづけ、都市での清掃活動や農村での食料増産、民族紛争などに取り組んできた。現在、京都市内や、アフリカのザンビア、ジブチ、ガーナにおいて都市の有機性ごみ(食品ごみや下水汚泥など)を材料とした農業利用の取り組みを進めている。京都大学では、「生態人類学」や「自然地理学」、「文学部特殊講義」、「アフリカ環境学」、「ハウサ語」などの授業を担当している。大同生命 地域研究奨励賞(2014)、松下幸之助 花の万博記念奨励賞(2023)を受賞。著書に『西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む：ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防』(昭和堂)など、共著に『ザンビアを知るための55章』(明石書房)などがある。